

令和7年度 学力向上推進計画2

学 校 種	小	学 校 名	砥部町 立 広田小 学校
学校番号	90	校 長 氏 名	坪内 英樹
期 間	R7.9~R8.3	学力向上推進 主 任 氏 名	城戸 祐乃

Plan 計画

【現在の子供の姿】

- 基礎的・基本的な学力の定着に差がある。
- 学級によって ICT 機器の活用に差がある。
- 自分の意見を持ち、表現することが苦手な児童がいる。
- 他者と協働しコミュニケーションを図る力が低い児童がいる。
- 学習や諸活動に自ら積極的に関わっていこうとする意欲が低い児童がいる。

身に付けさせたい資質・能力

- 1
- ア 基礎的・基本的な知識及び技能
 - イ 他者の考えや既習事項から関心を広げ、自分の学びたいことを追求する能力
 - ウ 他者と積極的に関わり、対話や協働を通して自分の考えを深め、表現する能力

具体的な取組

- ア EILS・eスタ・学びポケット・電子図書館を活用し、ICT 機器を利用した学習を週に1回全学級行う。
- イ「国語コーナー」に、図書の紹介など読書を促すような掲示を追加する。
- ウ「せせらぎタイム」を、全学級で週1回以上授業に取り入れ、定期的に教職員間で状況報告・情報交換をする。

Do 実践

全教職員による共通実践

Check 評価

【成果○と課題●】

- 3
- EILS の読解力検定に取り組ませることで、様々な文章にふれさせることができた、様々な教科の基礎である文章の要旨をつかむ練習をすることができた。
 - せせらぎタイムについて、職員会議の時間などを使って具体的な状況報告や情報交換をすることで、他学年の取組を参考にしたり、各学年の対話力の成長と課題を知ったりすることができた。
 - 国語コーナーに関心を示す児童が偏っており、読書の推進に更なる工夫が必要である。
 - 自分の意見を自由に発言しているだけの話し合い活動もあった。司会の役割や自分の意見の言い方など、決まったルールを支援指導していく必要がある。
 - 学年が上がるに連れて、話し合いのやり方や中身が充実・向上していくように縦の連携を密にとっていきたい。

Action 改善案(課題をより明確にし、取組や評価方法の検証・改善)

- 4
- 多様な場面でせせらぎタイムを設け、他者と協力して課題を解決する姿勢を定着させる。
 - 全校で読書の時間を設定するなど、読書の習慣をつくる。

→ 次サイクルへ